埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第113集

狢山古墳群（5号墳）

2010.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第113集

狭山古墳群（5号墳）

2010.3

深谷市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、北部は利根川を挟んで群馬県と接し、南部には荒川が東流しており、その南は比企丘陵と連なっています。

市域の北半部は妻沼低地で、南半部は荒川によって形成された荒川扇状地が浸食されてできた櫛引台地となっています。この台地上には、唐沢川や藤治川が北流し、観音山（標高 77 m）、仙元山（標高 98 m）、山崎山（標高 116 m）などの独立丘陵が存在しています。

なかでも山崎山一帯は、大規模な古墳群として古くから知られ、圃場整備やゴルフ場造成、関越自動車道建設などに先立ち発掘調査が実施されてきました。その結果、古墳時代前期から後期に至る様々な古墳が検出され、多くの埴輪が出土しました。

狢山古墳群は、山崎山丘陵の通称狢山と呼ばれる支丘に分布しています。本報告書は、特別養護老人ホーム建設に先立ち平成 20 年度に実施した狢山古墳群の調査成果をまとめたものです。狭小な調査範囲でしたが、古墳の墳形が明らかになるなど、狢山古墳群の性格を考える上での資料を得ることができました。本書が学術･教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました社会福祉法人かつみ会に心より御礼申し上げます。

平成 22 年３月

深谷市教育委員会

例　　言

１．本書は、埼玉県深谷市今泉610、611、624－１に所在する狭山古墳群５号墳の、平成20年に実施した発掘調査の成果をまとめたものである。

２．文化財保護法第93条の１第２項に基づく事業者宛の指示通知は、次の通りである。
　　平成21年１月16日付　教生文第４－940号

３．文化財保護法第99条第１項に基づく発掘調査の通知は、次の通りである。
　　平成21年１月15日付　深教生発第743号

４．発掘調査は、宮本直樹が担当し、平成21年１月19日～平成21年２月16日にかけて実施した。

５．出土品の整理及び実測・観察表の作成は、竹野谷俊夫が行なった。

６．図版作成は、宮本直樹と竹野谷俊夫が行った。

７．本書の執筆は、宮本直樹が行なった。

８．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

９．発掘調査から報告書作成まで、以下の方々にご指導ご助言を賜った。
　　坂本和俊　　鳥羽政之

凡　　例

１．発掘調査位置図は岡部町全図（1/10,000）及び岡部町平面図（1/2,500）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/25,000）を使用した。

２．遺構実測図は、現場では基本的に1/20、カマド実測図を1/10とし、本書掲載の段階で1/60及び1/30とした。遺物については、基本的に1/３で掲載した。

３．図中の方位は、座標北を示す。

４．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

５．土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

目　　次

序

例言・凡例

目次

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯と経過 …… 1
　１．発掘調査の経緯 …… 1
　２．発掘調査の経過 …… 1
　３．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 2

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 4
　１．地理的環境 …… 4
　２．歴史的環境 …… 4

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 6
　１．狢山古墳群の概要 …… 6
　２．発見された遺構と遺物 …… 6
　３．まとめにかえて …… 6

挿図目次

第１図　狢山古墳群の範囲と調査地点…… 3
第２図　狢山古墳群１次調査位置図…… 3
第３図　周辺の遺跡分布…… 5
第４図　狢山古墳群１次調査全測図…… 7
第５図　A区実測図 …… 8
第６図　B区実測図 …… 10
第７図　出土遺物実測図…… 11
第８図　狢山古墳想定図…… 12

写真図版

１　１次調査検出遺構
２　１次調査出土遺物

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯と経過

１．発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡を筆頭に、弥生土器を出土した上敷免遺跡、鹿島古墳群・黒田古墳群、郡衙正倉跡と想定される中宿遺跡、など、各時代を通して著名な遺跡が多い。さらに畠山重忠をはじめ多くの武蔵武士たちが活躍した地域でもある。

狢山古墳群（県登録番号№63-109）は、深谷市今泉地内の諏訪山丘陵の北東斜面に立地する。東西約130ｍ、南北約300ｍを測る楕円形の範囲である。この古墳群内に、現在６基の古墳が確認されており、最高位に立地するのが狢山２号墳である。

今回報告するのは、特別養護老人センター建設に先立ち実施した狢山古墳４号墳の第１次調査の成果をまとめたものである。

まず、平成20年11月19日付けで社会福祉法人かつみ会理事長伊藤捷男（以下、事業主と記す）から埋蔵文化財に対する協議書が提出された。深谷市教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が狢山古墳群の範囲内にあることを確認し、遺構の存在を明らかにするための確認調査が必要である旨を11月20日付けで書面にて回答した。これを受けて、事業主から埋蔵文化財発掘の届出が、11月26日に提出された。確認調査は、12月10日から同12日にかけて実施した。調査の結果、古墳周溝を確認した。

このため、事業主と教育委員会とで協議を行ったが、開発の変更が不可能であることから、記録保存のための発掘調査実施することで合意した。年が明けた平成21年１月14日、事業主と教育委員会が発掘調査の委託契約を締結した。翌15日に発掘調査の通知を埼玉県教育委員会教育長宛に提出した。

２．発掘調査の経過

狢山古墳群第１次調査地点は、深谷市今泉字狢山610、611、624－１番地である。調査区中央での標高は、約85ｍを測る。

発掘調査は、平成21年１月19日から同年２月16日にかけて実施した。発掘調査の対象となるのは、建物の配置上２か所に分かれたが、これらを合算した調査面積は、約80㎡である。

調査は、まずバックホーによる表土除去から行った。現地表面より約80㎝の深さで黄褐色土のソフトローム面が現れたので、これを確認面とした。

掘下げを実施したところ、２か所の範囲から周溝の一部を検出した。

実際の調査は、北側の範囲から行い、Ｂ区と命名した。まず、鋤簾を用いたプラン確認を実施し、写真撮影の後、掘り下げを始めた。

調査にあたり、１月20日にはヤナセ登記測量事務所により測量図作成のための基準点測量を実施した。また、堀下げの途中、石器や縄文土器が出土したが、小破片であるので、随時取り上げながら、掘り下げを続けた。１月29日には、底部までの掘下げが完了し、完掘状況の写真撮影を実施した。

続いて南西側の範囲（Ａ区）に移行し、東部から掘り下げを開始した。Ａ区の掘下げが完了した段階で、Ａ区のみの完掘状況の写真撮影を実施した。

その後、両区の土層断面図の作成を実施した。その後に平面図を作成した。土層断面図・平面図ともに1/ 20の縮尺で実測した。

全ての測量が終了した２月13日、両区の完掘状況の写真撮影を実施した。これにより、発掘調査の全工程が終了し、２月16日に機材等の撤収を行った。

図版・出土遺物の整理は、平成22年１月から始め、同時に原稿執筆を行った。２月に原稿を入稿し、３月に完成した。

３．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

発掘調査　（平成20年度）

教育長	猪野　幸男
教育次長	石田　文雄
次長	中村　信雄
課長	澤出　晃越
課長補佐	吉羽　厚仁
係長	鳥羽　政之
主査	森下昌市郎
〃	宮本　直樹
主任	知久　裕昭
主事	幾島　　審
臨時職員	栗原貴世実
〃	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	北本ゆかり
〃	黒澤　　恵
〃	佐藤　由江
〃	布施みゆき
〃	松井紀代子

整理・報告書刊行（平成21年度）

教育長	猪野　幸男
教育次長	石田　文雄
次長	島崎　　保
課長	澤出　晃越
課長補佐	吉羽　厚仁
係長	村松　　篤
主査	宮本　直樹
主任	荻野　直美
〃	知久　裕昭
主事	幾島　　審
主事補	飯島　峻輔
臨時職員	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	北本ゆかり
〃	佐藤　由江
〃	布施みゆき
〃	松井紀代子

第１図　狐山古墳群の範囲と調査地点

第２図　狐山古墳群１次調査位置図

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

１．地理的環境

埼玉県の北部に位置する深谷市は、北は利根川を挟んで群馬県と接する。南部には荒川が東流し、両河川が最も近接する地域である。

深谷市の南半部は櫛引台地、北半部は妻沼低地であり、地形的に二分できる。櫛引台地は、荒川によって形成された荒川扇状地が浸食されてできた洪積台地である。寄居付近を頂点として、西側の櫛引面と東側の一段低い寄居面、両者に挟まれるように御稜威ケ原面からなる。この間を唐沢川や藤治川が北流する。また、台地上には、観音山（標高77ｍ）、仙元山（標高98ｍ）、山崎山（標高116ｍ）などの独立丘陵が存在する。

このうち山崎山丘陵は、北半を山崎山、南半を諏訪山と呼ばれる。諏訪山の頂部から東へ伸びる支丘の標高86.1ｍの通称狢山と呼ばれる頂部を中心に分布している。南に谷津を流れる小川を水源とした水田を望むことができる。最も高い所に位置するのが狢山２号墳で、水田面との比高差は13ｍほどである。今回報告する５号墳は、確認されている６基の古墳のうち中央に位置している。

２．歴史的環境

遺跡の立地する山崎山丘陵は、北半を山崎山、南半を諏訪山と呼ばれる。山崎山には北東斜面に千光寺古墳群が展開する。諏訪山には南北に長い尾根上に伸びる諏訪山古墳群が存在する。その南の舌状台地に安光寺古墳群が存在し、藤治川に面した東端の支丘上には大明神古墳群が立地する。

諏訪山古墳群は、稜線を挟み深谷市と美里町にまたがり、20基あまりの古墳の存在が確認されている。そのうち７基が深谷市内にある。

なかでも美里町に存在する長坂聖天塚古墳は、５世紀前半につくられた高さ4.5ｍ、直径50ｍの円墳である。県内では初期古墳の代表的なもので、この地方の古墳発生を知るうえで重要な古墳として県の指定を受けている。

昭和49年の調査で、高さ4.5mの墳丘は自然の丘にわずか１ｍほど人工的に盛土して形成されたもので、本来は60m級の規模が推定されている。墳頂から粘土槨３基、木棺直葬３基が検出され、菱雲文縁方格規矩鏡などが出土し、５世紀初め頃の築造と推定された。埋葬主体が多いのは、まだ共同体の首長が他の共同体メンバーと隔絶した存在になっていなかったからだとも言われている。

発掘調査により鏡や土器などの遺物が出土したが、中でも方角規矩鏡は直径22.5cmの大型鏡で、出土鏡としては県内最大である。

川輪聖天塚古墳は、長坂聖天塚古墳の北東に存在した。埴輪壷が出土し、長坂聖天塚に続く５世紀初め築造の円墳と思われたが、残念ながら採土のため破壊されてしまった。

千光寺古墳群は、山崎山丘陵北東尾根先端部の、藤治川の形成した狭長な低地部を望む場所にある。古墳時代前期の方形周溝墓４基と後期の古墳３基が確認されており、それぞれが藤治川流域の小規模な生産基盤を背景にして出現した各時期の首長墓と想定されている。

安光寺古墳群は、関越道建設に先立ち調査が行われ２基の古墳が検出された。１号墳は、周溝が方形に廻る。規模は東西15.8ｍ、南北13.5ｍ、平面形は西側で膨らみを有する。５世紀前半。２号墳は円墳で、５世紀中葉。安光寺付近にもかつて木棺直葬の15mの方墳、粘土槨を持つ27mの円墳などが存在していたこともあり、あたりには比較的古めの古墳が集まっていたようである。

狢山古墳群は、古代の榛沢郡と児玉郡・那珂郡との郡境地帯に存在する山崎山丘陵の、中央部から東に伸びる通称狢山と呼ばれる支丘に分布している。現在６基の古墳が確認されており、このうち最も高い所に位置するのが本古墳であり、標高は86.7ｍを測る。南方には、谷筋を流れる小川を水源とした水田を望むことができ、水田面との比高差は13ｍほどである。

なお、古墳群の北東側緩斜面には、多数の土製品を出土した狢山祭祀遺跡が存在する。過去に３回の出土があった。１回目は1950年ころで、山林開墾中に多数の土製品（人形・盌・杵など）が出土した。２回は1955年で、地主が山林と畑の境界に根切り溝を掘った際に人形が出土したので、径４ｍの範囲を半円形に掘り下げたところ、人形５体が並んだ状態で置かれており、その南側に他の土製品が出土した。

３回目も1955年であり、1950年に開墾された地点の地下1.5ｍから土製模造品が出土した。資料は、地主が保管しているほか、京都国立博物館に所蔵されており、その土師器高坏から５世紀後半代と推定されている。

第３図　周辺の遺跡分布

0　1 km

1．狢山古墳群　（古墳群）
2．狢山祭祀遺跡　（祭祀跡）
3．大明神古墳群　（古墳群）
4．諏訪山古墳群　（古墳群）
5．西山古墳群　（古墳群）
6．千光寺古墳群　（古墳群）
7．茶臼山古墳群　（古墳群）
8．石原山瓦窯跡　（瓦窯跡）
9．西谷遺跡　（縄文・律令期集落）
10．水久保遺跡　（縄文集落）
11．西龍ヶ谷遺跡　（律令期～中世集落）
12．大寄遺跡　（縄文・弥生～律令期集落）
13．新井遺跡　（律令期集落）
14．長坂聖天塚古墳　（古墳）
15．西河原遺跡　（縄文・古墳）
16．清水谷遺跡　（古墳・奈良・平安）
17．北坂遺跡　（旧石器・律令期集落）
18．慈眼谷遺跡　（古墳、奈良・平安）
19．寺山窯跡　（平安・鎌倉）
20．渡瀬遺跡　（古墳、奈良・平安）
21．中村遺跡　（古墳～平安集落）
22．伊勢方遺跡　（縄文、古墳、奈良・平安）
23．屋敷添遺跡　（古墳、奈良・平安）
24．中町遺跡　（古墳、奈良・平安）
25．中町南遺跡　（古墳、奈良・平安）
26．中原南遺跡　（縄文、古墳、奈良・平安）
27．水久保Ⅱ遺跡　（縄文、古墳、奈良・平安）
28．中原遺跡　（縄文、古墳、奈良・平安）
29．東谷遺跡　（縄文）
30．沼端遺跡　（縄文）

Ⅲ．発見された遺構と遺物

１．狢山古墳群の概要

狢山古墳群は、狢山古墳群は、古代の榛沢郡と児玉郡・那珂郡との郡境地帯に存在する山崎山丘陵の、中央部から東に伸びる通称狢山と呼ばれる支丘に分布している。

現在６基の古墳が確認されており、このうち最も高い場所に位置するのが本古墳であり、標高は86.7ｍを測る。南方には、谷筋を流れる小川を水源とした水田を望むことができ、水田面との比高差は13ｍほどである。

２．発見された遺構と遺物

今回報告する発掘調査地点は、深谷市今泉字狢山610、611、624－１番地である。周辺では過去に個人住宅や老人ホーム建設、駐車場造成に先立ち確認調査を実施しているが、いずれも遺構は検出されなかった。よって、今回の調査が狢山古墳群における１次調査となる。

発掘調査は、建物の配置から古墳が破壊されると想定される２か所に分けて実施した。

調査の結果、A区と呼ぶ南側の調査地点では、直角に折れ曲がる周溝の一部を、B区では直線的に延びる周溝の一部を検出した。

また、隣接する駐車場造成に先立ち実施した確認調査の成果も合わせて、現在までに判明した古墳の概要について記述したい。

古墳は、長辺20ｍ、短辺18ｍの規模を有することが判明した。周溝は方形に廻り、確認面での幅５ｍ、深さは75cmを測る。周溝の壁は、墳丘側から緩やかに落ち込み、外側で角度をもって立ち上がっていた。

古墳は自然地形を利用して造られているため、どこまでが盛り土であるのか判然とせず、外見上からの観察では明確な墳形を判断するのはむずかしい。葺石についても、確認できなかった。現存する墳丘の高さは、1.6ｍほどである。

遺物は、縄文土器片９点・石器２点・磨製石鏃１点、土師器坏１点が、周溝内から出土した。縁泥片岩の破片も散見された。縄文土器は、すべて早期撚糸文期終末の無文土器が主体を占める。№１・２・６は、口縁下に一条の沈線を巡らすいわゆる東山式土器である。８は、角頭の口縁下に絡条圧痕文を施す。花摘台Ⅱ式土器である。これらのうち磨製石鏃は弥生時代、土師器坏は小破片であるが古墳時代以降のものと考えられる。よって、本古墳に直接関連する遺物は、検出されなかった。

また、６世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火による火山灰（Hr－FA）の堆積は、周溝内でも確認することができなかった。

３．まとめにかえて

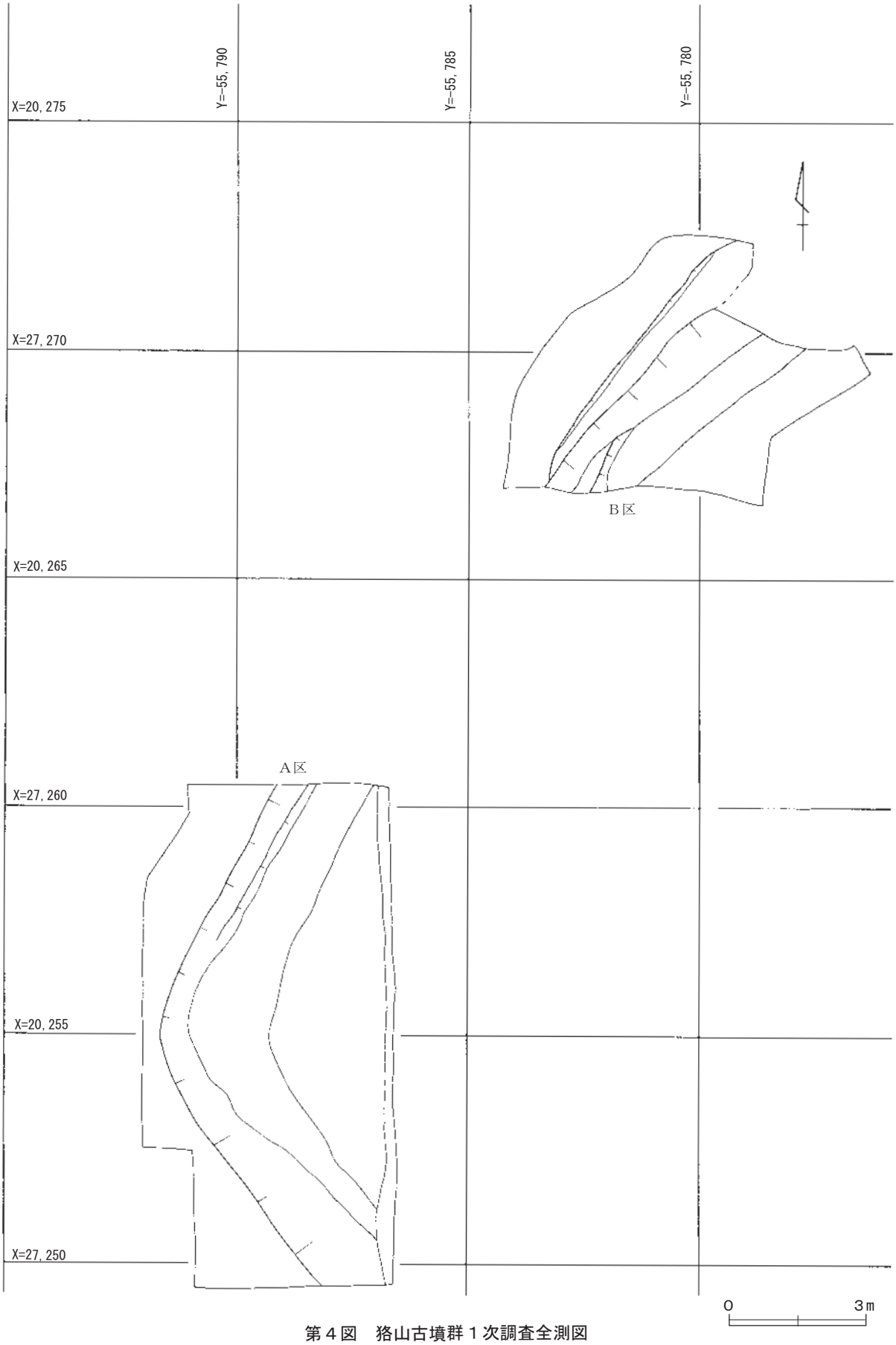
今回の調査では、残念ながら多くの情報を得ることはできなかった。墳丘に関しては、今回調査が至らず正確な規模や主体部は、明らかではない。しかしながら、従来円墳と認識されていた墳形が20ｍ規模の方形であったこと、葺石を持たず、埴輪等をはじめとする遺物が皆無なこと、石室の石材等が認められなかったこと、などを確認することができた。

これらの状況から、本古墳は、同じ山崎山丘陵に立地する安光寺古墳群や千光寺古墳群に存在する、古墳時代前期から中期にかけての低墳丘の方形墓ないし方形周溝墓の可能性が高い。

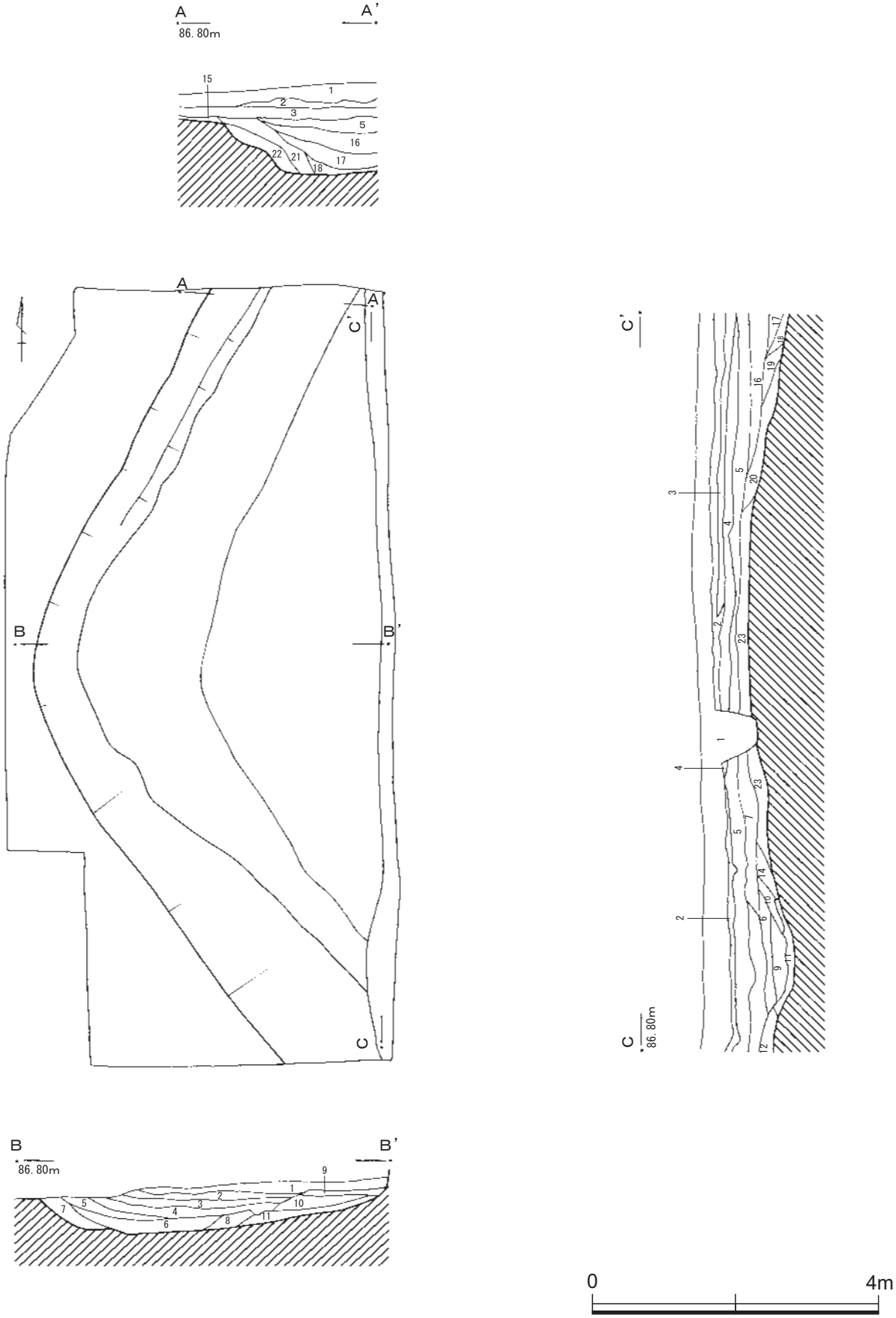
古墳群の全容は不明であるが、藤治川左岸の狭長な生産基盤を背景に出現した首長墓群と想定され、本地域の古墳時代の発展段階を知る上で重要な資料といえる。

また、隣接する狢山祭祀遺跡は、過去の山林開墾中に多量の土製品が出土している。人形・馬形・鏡などがあり、「坂の神」を祭るのに用いられたと想定されている。時期は、共搬した土師器から５世紀後半代と推定される。

今後は、集落を発見することが期待され、古墳群・祭祀遺跡とともに、総合的に検討していくことが課題である。



第４図　狢山古墳群１次調査全測図


A
A'
86.80m
15
1
2
3
5
16
22
21
18
17
A
A
C'
B
B'
C
C'
17
18
19
16
5
20
3
4
2
23
1
4
23
7
5
14
10
6
2
9
11
12
C
86.80m
B
B'
86.80m
9
1
2
10
3
5
7
4
11
6
8
0
4m

第５図　Ａ区実測図

Ａ区　Ａ－Ａ’土層説明

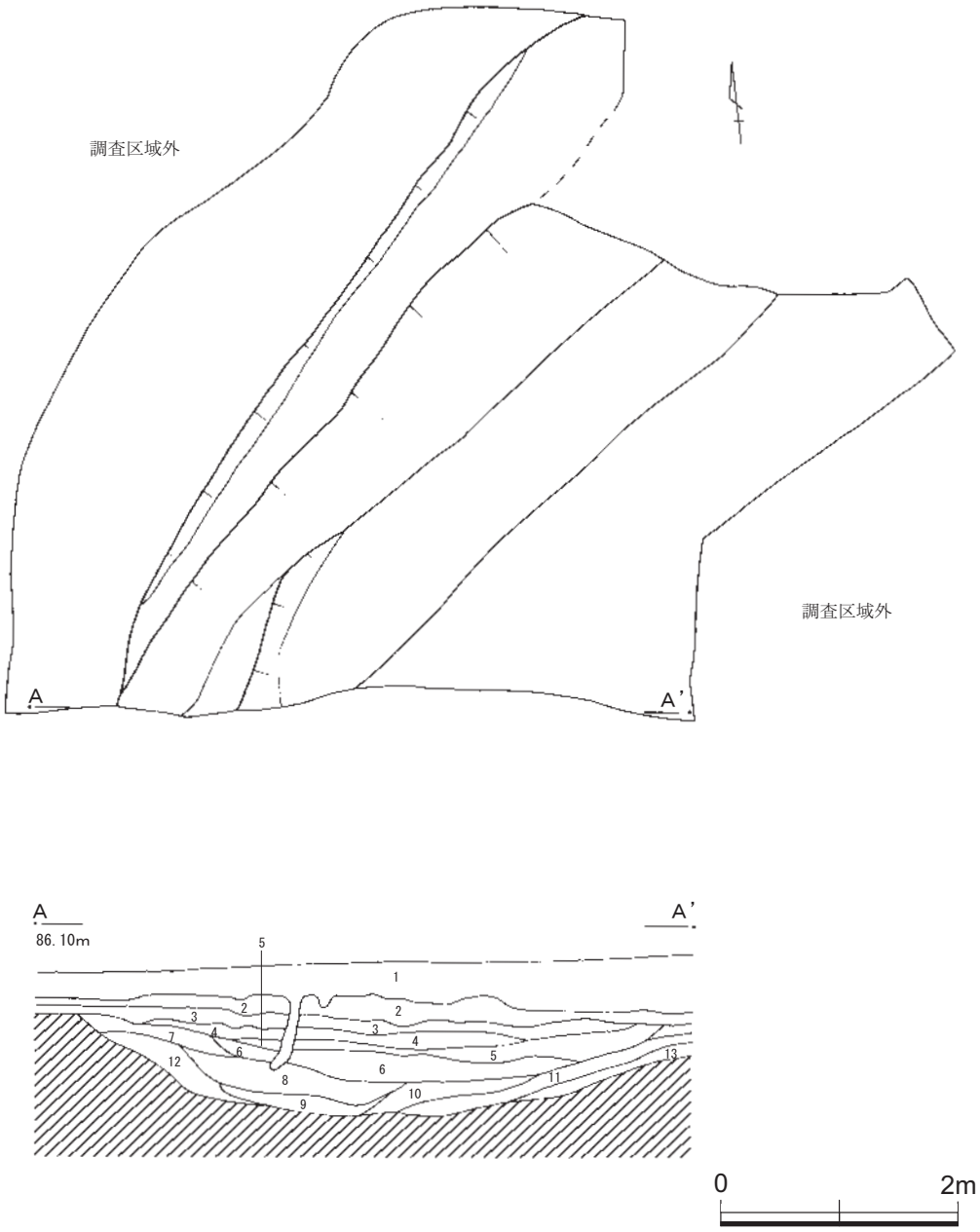
1	褐色土	Ａ軽石少量含む。現代の耕作土。
2	茶褐色土	白色粒微量含む。粘性弱い。
3	暗褐色土	
5	明褐色土	ローム粒・白色粒微量含む。粘性若干あり。
15	茶褐色土	
16	黒色土	ローム粒微量含む。
17	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
18	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
21	暗茶褐色土	ローム粒と黒色土の混合土。
22	暗黄褐色土	ローム粒主体。ロームブロック微量含む。

Ａ区　Ｂ－Ｂ’土層説明

1	褐色土	Ａ軽石少量含む。現代の耕作土。
2	暗褐色土	黒色土微量含む。粘性弱い。
3	黒褐色土	褐色土と黒色土の混合土。
4	黒色土	ローム粒微量含む。
5	黒褐色土	ローム粒微量含む。
6	黒色土	ローム粒微量含む。
7	黒色土	ローム粒多量含む。
8	暗茶褐色土	黒色土少量、ローム粒微量含む。
9	褐色土	ローム粒少量含む。
10	暗褐色土	ローム粒微量含む。
11	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。粘性ややあり。

Ａ区　Ｃ－Ｃ’土層説明

1	褐色土	Ａ軽石少量含む。現代の耕作土。
2	茶褐色土	白色粒微量含む。粘性弱い。
3	暗褐色土	
4	暗茶褐色土	
5	明褐色土	ローム粒・白色粒微量含む。粘性若干あり。
6	黒色土	ローム粒微量含む。
7	暗茶褐色土	黒色土少量、ローム粒微量含む。
9	黒褐色土	黒色土・ローム粒少量含む。
10	暗茶褐色土	黒色土・ローム粒少量含む。
11	暗黄褐色土	ローム粒・黒色土を少量含む。
12	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量含む。
13	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
14	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
16	黒色土	ローム粒微量含む。
17	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
18	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
19	暗茶褐色土	黒色土と茶褐色土の混合土。
20	暗茶褐色土	ローム粒多量、黒色土少量含む。
21	暗茶褐色土	ローム粒と黒色土の混合土。
22	暗黄褐色土	ローム粒主体。ロームブロック微量含む。
23	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量含む。



B区　A－A’土層説明

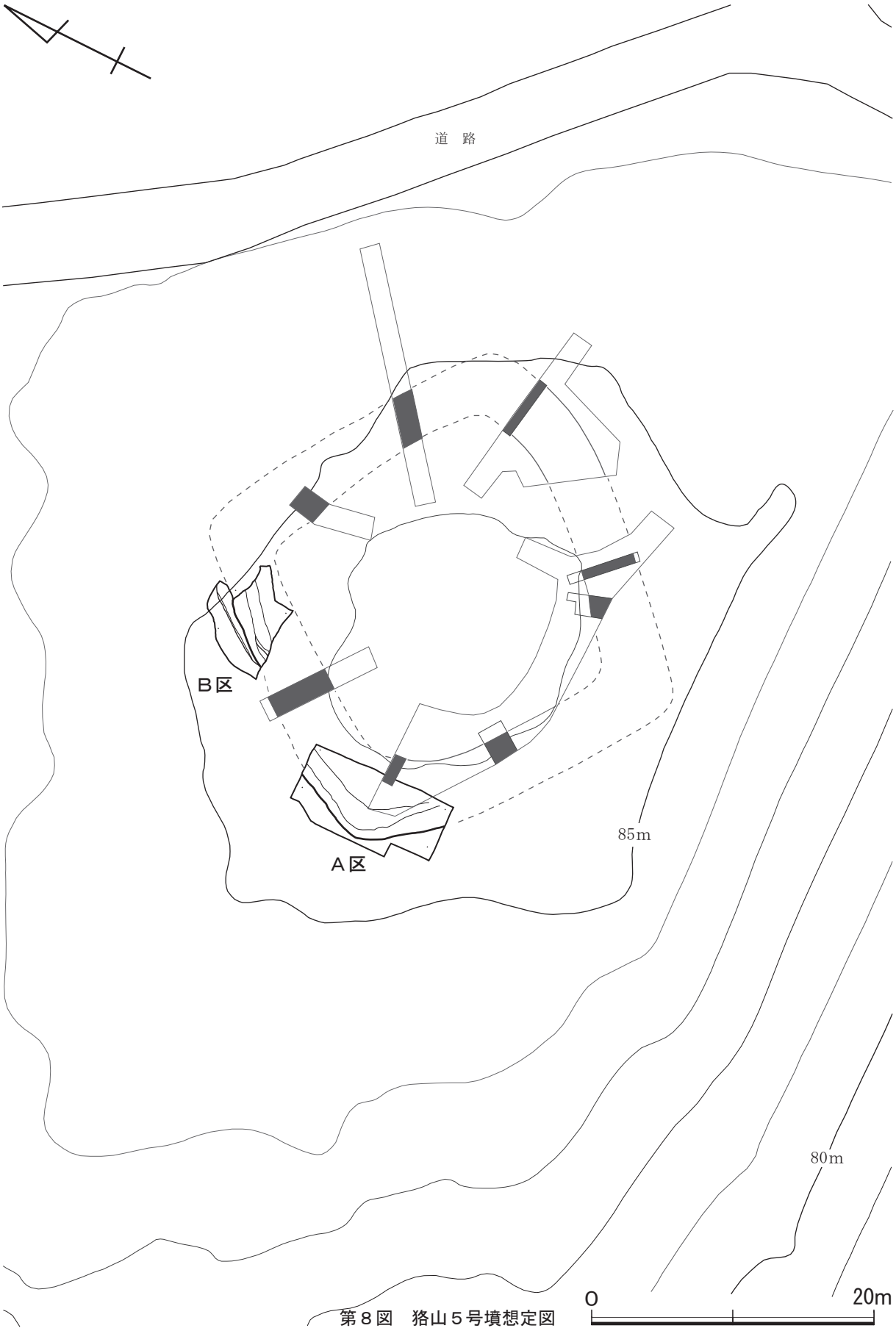
1	褐色土	A軽石少量含む。現代の耕作土。
2	褐色土	白色粒微量含む。粘性弱い。
3	茶褐色土	白色粒微量含む。粘性弱い。
4	暗茶褐色土	３層主体に黒色土少量含む。
5	黒褐色土	茶褐色土と黒色土の混合土。
6	黒色土	ローム粒微量含む。
7	黒褐色土	ローム粒少量、白色粒微量含む。
8	黒褐色土	ローム粒微量含む。
9	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
10	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
11	茶褐色土	ローム粒多量含む。
12	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
13	暗黄褐色土	ローム粒主体。粘性あり。

第６図　Ｂ区実測図

第７図　出土遺物実測図

５号墳出土遺物観察表

No.	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　土	残存率	備　考
1	縄文甕				灰橙褐色	普通	砂粒、細礫	口縁破片	
2	縄文甕				灰赤褐色	良好	砂粒、細礫、赤色粒	口縁破片	
3	縄文甕				にぶい橙色	普通	砂粒、細礫	口縁破片	
4	縄文甕				灰オリーブ色	普通	微砂粒、角閃石	底部破片	
5	縄文甕				赤褐色	普通	細砂粒	胴部破片	
6	縄文甕				赤褐色	普通	砂粒、赤色粒	口縁破片	
7	縄文甕				茶褐色	良好	砂粒（精良）	口縁破片	
8	縄文甕				茶褐色	良好	砂粒、赤色粒	口縁破片	
9	縄文甕				にぶい橙色	普通	砂粒、赤色粒	胴部破片	
	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材			
10	磨石、敲石	9.2	6.0	3.3	298	安山岩			
11	礫　器	9.3	5.8	2.7	160.3	頁岩			
12	石　鏃	2.2	1.3	0.2	0.7	粘板岩	孔径１～３㎜		穿孔は両面に片側からのみ行う。



第８図　狢山５号墳想定図

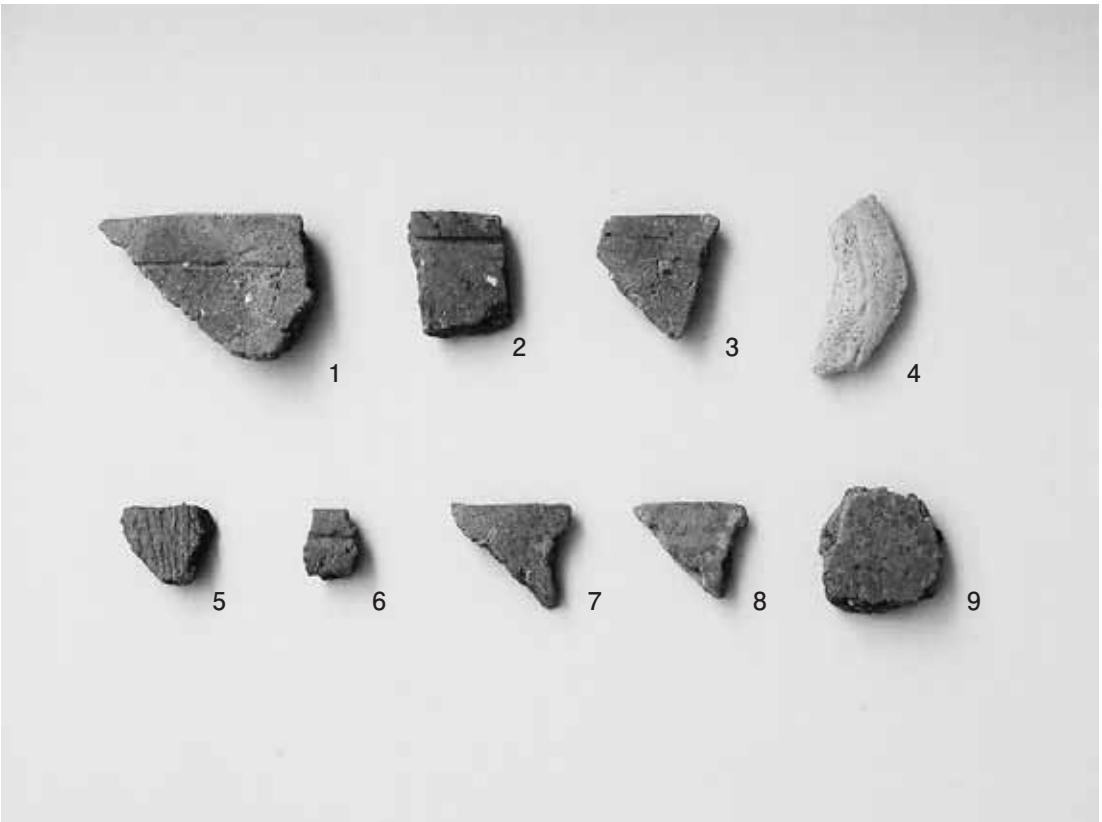
写　真　図　版

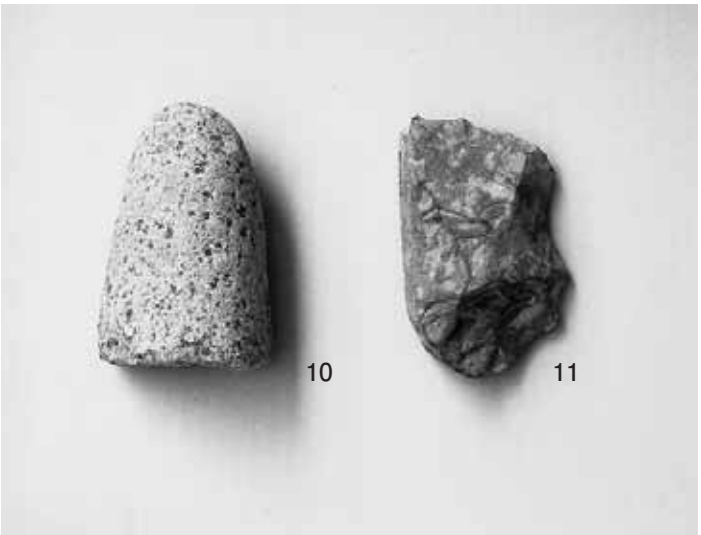
図版 1

調査区全景

A区

B区





５号墳出土遺物

報告書抄録

ふりがな	むじなやまこふんぐん
書　　名	狢山古墳群
副 書 名	５号墳
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	第113集
編著者名	宮本直樹･竹野谷俊夫
編集機関	深谷市教育委員会
所 在 地	〒366-0823　深谷市本住町17番地3　℡048(572)9581
発 行 日	平成22年３月25日

所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）		コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
狢山古墳群（むじなやまこふんぐん）（１次調査）	埼玉県深谷市今泉（さいたまけんふかやしいまいずみ）字狢山（あざむじなやま）610、611、624-1		11405	109	36°10′53″	139°12′46″	平成21年１月19日から平成21年２月16日まで	85㎡	特別養護老人ホーム建設
	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	古墳群	古墳時代	古墳（周溝）		縄文土器 土師器 石製品		従来円墳と認識されてきた墳形が方墳であることが判明した。		

狢山古墳群（５号墳）

平成 22 年 3 月 25 日

編集発行　深谷市教育委員会
深谷市本住町 17 番地 3